

IV-462

オートキャンプ場の利用実態とその適正配置

長岡高専 正会員 湯沢 昭
西部造園 山谷俊輔

1. はじめに

オートキャンプは欧米発祥の屋外レジャーの1つであり、キャンピングカーを用いて家族や仲間と長期に渡り低予算で合理的に過ごすものである。我国においても余暇時間の増加、レジャー活動の多様化、モータリゼーションの発達等により、オートキャンプ利用者は年々増加傾向にあるが、施設の整備状況やキャンプ場の受け入れ体制は必ずしも十分ではないのが現状である。本研究は、現在の我国のオートキャンプ場の整備状況の実態の把握と、オートキャンプ場利用者の評価を行い、オートキャンプ場の適正配置について検討を行うものである。

2. オートキャンプ場の現状把握のための調査内容

本研究では、2種類の調査に基づいて検討を行う。

(1) 「調査1」：東日本(中部地方から北海道)の全てのキャンプ場の中で、オートキャンプが可能な施設(559箇所)を対象とした施設整備の実態調査。調査項目は、施設の整備、運営、収入と支出、利用者の推移等、計70項目からなっている。調査は、平成5年12月に実施し、合計152件の回答を得た。

(2) 「調査2」：回答のあった152のキャンプ場の中から8箇所を選定し、各オートキャンプ場の利用者を対象としたアンケート調査を実施した。調査の内容は、レジャー活動一般、キャンプ場の利用に関する感想や意識調査から構成されており、合計178人から回答を得た(平成6年8月に実施)。なお、調査方法としては、各キャンプ場から利用者へ直接用紙を配布し、郵送回収方式を採用した。

3. オートキャンプ場の現況と利用場の課題

(1) オートキャンプ場の利用状況「調査1」

図-1は、152箇所のキャンプ場の利用者の変化を表しており(1985年を100とする)、6年間で約1.8倍の増加を示しており、中でも1990からの増加傾向が特徴的である。キャンピングカーサイト数の分布は、11から20サイトが最も多く、30サイト以下が全体の83%を占めており、小規模なキャンプ場が多いことが分かる。

図-2は、オートキャンプが可能なキャンプ場の月別利用者の比率(平成4年)を表したものであり、8月が45%と最も多く、7月から9月では全体の76%と夏型のレジャー活動であることが分かる。しかし、オートキャンプ場の多くは、単に車両の乗り入れが可能なだけであり、本格的な施設(AC電源、個別サイト等)を有するキャンプ場は必ずしも多くはない。図-3は、日本オートキャンプ協会が公認している施設の月別利用状況を表したものであり、図-2に比較すると利用者が分散していることが分かる。すなわち、本格的なオートキャンプは、4月から11月までとかなり長い期間に渡り利用されている。

(2) 利用者から見た課題「調査2」

オートキャンプ場利用者の年間のキャンプ回数としては、1回が最も多く全体の35%を占めており、回数が増加するに従って減少している。このように年間のキャンプ回数は必ずしも多くはない。これは図-2に示したように利用期間が夏季に集中しており、また家族単位での行動であるため夏休みを利用してることによるものである。

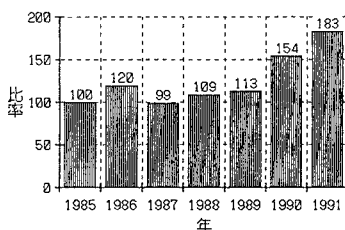


図-1 キャンプ場の利用者の変化

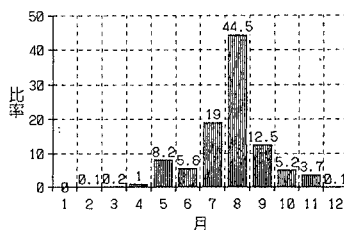


図-2 キャンプ場の月別利用者比率

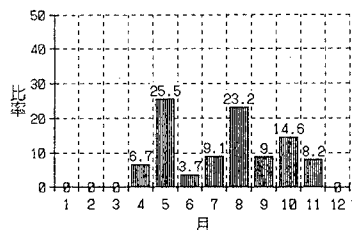


図-3 月別利用者比率(認定オートキャンプ場)

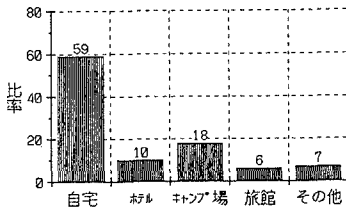


図-4 前の宿泊施設

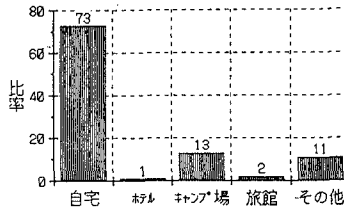


図-5 次の宿泊施設

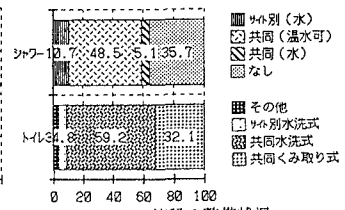


図-6 施設の整備状況

表-1 重要な付帯施設

重要な付帯施設	重要度
水洗トイレ	1.000
風呂	0.543
温泉	0.506
遊び場・遊具	0.453
ミニスーパー	0.426
温水シャワー	0.424
広場	0.318
コインランドリー	0.305
プール	0.167
ロッジ・コテージ	0.098

表-2 キャンプ場のシステム・体制

キャンプ場のシステム・体制	重要度
予約センターの設立	1.000
救急医療体制の充実	0.819
オートキャンプ場の施設基準の認定制度	0.784
オートキャンプ場の適性配置	0.769
オートキャンプ場の管理人の認定制度	0.461
オートキャンプ場の通年営業	0.453
オートキャンプ場間的高速道路網の整備	0.380
キャンプ用品のレンタル	0.374
会員制オートキャンプ場の設立	0.065

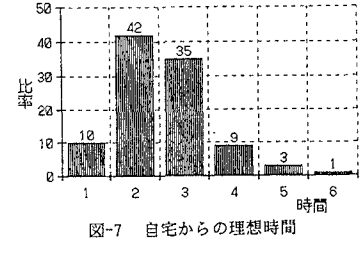


図-7 自宅からの理想時間

図-4、図-5は当該キャンプ場へ来る前の宿泊施設と、次の宿泊施設を整理したものである。図から明らかに「自宅からキャンプ場へ」、「キャンプ場から自宅へ」と言うシャトルタイプの行動がその大半を占めているが、「キャンプ場からキャンプ場へ(図-4:18%) (図-5:13%)」と言うネットワークタイプの行動も見られ、休暇の長期化やキャンプ場の施設の整備が進めば、この種の行動はさらに増加するものと考えられる。

表-1、表-2はオートキャンプ場の重要な施設とシステム・体制の重要性を整理した結果である(最も重要な項目を1.0とした相対的な重要度)。付帯施設としては、水洗トイレ、風呂・温泉等が挙げられており、中でもトイレの重要性が際立っている。図-6は、「調査1」から得られたキャンプ場のシャワーとトイレの整備状況を示しており、シャワーの施設が整備されていないキャンプ場が36%を占めており、またトイレは、水洗化されていないものが32%となっている。また、表-2から明らかに「予約センターの設立」「救急医療体制の充実」「施設基準の認定」「適正配置」等、システム・体制の充実は早急に図る必要がある。このことは前述したようにオートキャンプ活動の長期化やキャンプ場間のネットワーク化を考える上も重要な課題である。

4. オートキャンプ場の適正配置

オートキャンプは、家族や自然との触れ合いを目的とすることが多いため、必ずしもキャンプ場が自宅の周辺にある必要はない。図-7は、自宅からキャ

ンプ場までの理想時間をたずねた結果を表しており、2時間が最も多く42%、次いで3時間の35%となっている。平均的には約2.6時間であり、本論文ではこれを距離に換算して100km(約40km/h)とする。すなわち自宅から100km程度にあるキャンプ場が最も利用効用が高く、それ以下でも以上でも効用が減少するものとする。この結果から任意の地点(i)のポテンシャルを以下の式から算出する。

$$P_i = \sum \{A_j * (1 - |d_{ij} - 100| / d_{ij})^2\} \quad (d_{ij} \geq 100)$$

$$P_i = \sum \{A_j * (1 - |d_{ij} - 100| / 100)^2\} \quad (d_{ij} < 100)$$

P_i : 地点(i)のポテンシャル

A_j : 地点(j)のキャンプ場の規模

d_{ij} : i, j間の距離(km)

上式の A_j としては、キャンプ場のグレード($A_j=1 \sim 5$)を採用する。このグレードとは、日本オートキャンプ協会が採用している認定基準であり、その基準に適合したキャンプ場が現在100箇所程度ある。なお、地点iとj間の距離は一般道路を利用した場合の最短距離とする(高速道路利用についても検討)。

5. おわりに

本研究は、我国におけるオートキャンプ場の整備の現状と利用者から見た問題点を整理し、併せてキャンプ場の適正配置問題について検討を行ったものである。特に、オートキャンプ場の適正配置問題については、各都市からキャンプ場までの適正な距離を考慮し、ポテンシャルを算出することにより検討を行っている。結果の詳細については講演時に報告する。